

混合交通を観察する
DOCUMENT
●series—200
Eye



●観察場所/東京都江戸川区東葛西9丁目付近
●観察日/9月10日(日曜日)
●天候/晴れ
●観察時間/14:40~15:40
●観察者/4名

●商業施設周辺でチャイルドシートの使用状況を観察する
6歳未満の子どもも214人中、チャイルドシート使用は78人(36.4%)

●WHY
チャイルドシートは日常生活の中で使用されているか?

6歳未満の子どもをクルマに乗せる際は、保安基準および発育の程度に適合したチャイルドシートの使用が法律で義務づけられている。今年4月、警察庁と(社)日本自動車連盟(JAF)が全国104カ所をクルマに乗っていた6歳未



チャイルドシートを使用している子ども

満の子ども約1万3000人を対象に行なった共同調査では、「チャイルドシート使用」は全国平均で49.4%と、約半数がチャイルドシートを使用していなかった。このように平成12年4月の法制化から6年経過しているが、チャイルドシートを使用しないクルマがまだ多い。

●WATCHING
チャイルドシートを

使用していない子どもは
じつとどういられない

日常生活、特に買い物などを比較的距離の移動の際にチャイルドシートは使用されているか、東京・江戸川区の商業施設周辺で使用状況を観察してみた。



車内で立ち上がる子ども



運転席と助手席の間から、身を乗り出す子ども

観察場所は東京・江戸川区にある商業施設の出入口付近。日曜日の昼間ということもあり、家族連れのクルマが多かった。今回は6歳未満の子どもを乗せていたクルマを観察した。対象となったクルマは計195台、6歳未満の子どもは214人だった。

観察の結果、「チャイルドシート使用」は214人中78人(助手席30人・後部座席48人)であり、使用率は36.4%だった。チャイルドシートを使用していなかった136人の中で最も多かったのは、「シートにそのまま着座」で85人(助手席30人・後部座席55人)。続いて、「大人用シートベルト着用」が28人(助手席25人・後部座席3人)、「保護者の抱っこ」が23人(助手席16人・後部座席7人)だ

た。チャイルドシートを装着しているにもかかわらず、助手席や後部座席に座ったり、母親のすぐとなりに座るケースも目立った。祖父夫婦と孫という組み合わせという組み合わせ

●PROPOSE
近距離でも常にチャイルドシートの使用を

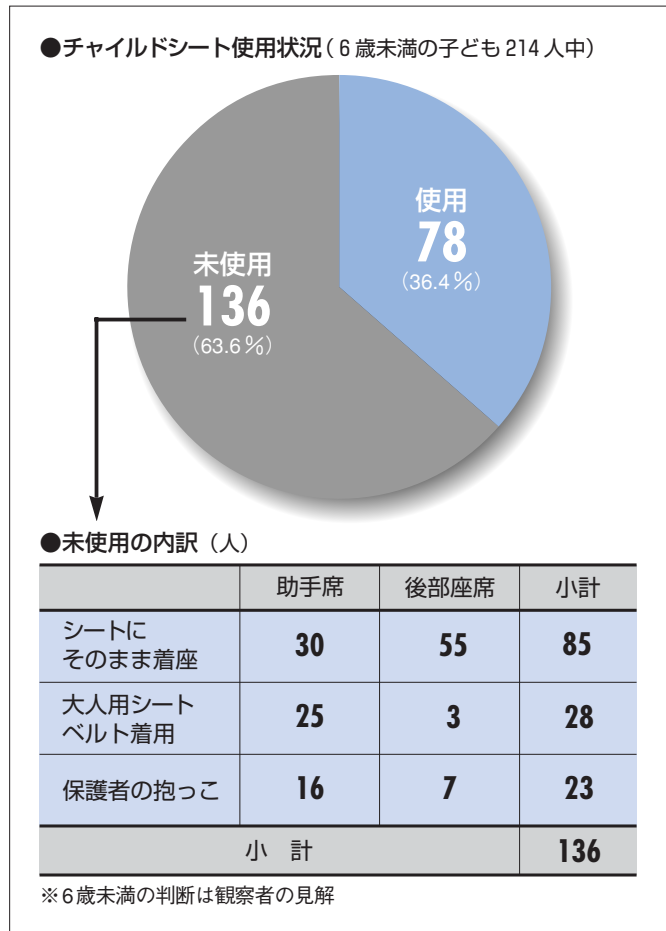
せと思われるクルマなど、チャイルドシート自体を取りつけないケースも観察された。

チャイルドシートを使用せず、大人用シートベルトも着用していない子どもは、座席の上に立ち上がったり、運転席と助手席の間から前方を覗き込んでいたり、車内でもじっとしてられない様子だった。このほか、助手席で背もたれを大きく倒した状態で座る母親のお腹の上でうつぶせに寝ている子どもも見かけた。

子どもは安全を確保するためにも、近距離でも常にチャイルドシートを使用してほしい。

クルマに乗車している子どもの安全を守るには保護者である親の義務である。今回の観察では、チャイルドシートを使用していた子どもは36.4%だった。この数字の低さは、近所に買い物に行くだけだから、親の危機意識が希薄になってきたからではないだろうか?自宅の周辺など近距離でも、自転車や歩行者の飛び出しなどで、急ブレーキをかける可能性がある。その時に、子どもが座席の上立っていたら、身体が飛ばされ、他の同乗者によつかったり、車外放出したりとたいへん危険である。

子どもは安全を確保するためにも、近距離でも常にチャイルドシートを使用してほしい。



保護者に抱きかかえられている子ども